



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

サービス向上委員会のご紹介

サービス向上委員会

当院では、毎月第2木曜日の15時よりサービス向上委員会を開催しています。サービス向上委員会は、患者さんやご家族により良い医療サービスを提供し、安心して療養していただける病院づくりを目指して活動している委員会です。患者さんの声を病院運営に反映させるための重要な役割を担っており、多職種の職員が協力しながらサービス向上に取り組んでいます。

委員会では、入院患者さんや外来患者さんから寄せられたご意見、ご要望、感謝のお言葉などを定期的に回収しています。いただいたご意見に対しては、病棟師長や関係部署が回答を作成し、その内容が適切であるか委員会にて検討を行います。患者さんの立場に立った分かりやすい回答となっているか、また改善すべき課題がないかを話し合ったうえで、病棟や外来への掲示を行っています。この取り組みは、患者さんとの信頼関係を深めるだけでなく、病院全体のサービス改善につながる大切な活動の一つです。

また、サービス向上委員会では「イベントグループ」と「接遇グループ」の2つのグループに分かれ、それぞれの特徴を活かした活動を行っています。両グループが連携しながら活動することで、患者さんに満足していただける病院づくりを推進しています。

イベントグループでは、患者さんやご家族に少しでも楽しみや季節感を感じていただけるよう、さまざまな院内イベントの企画・運営に携わっています。各病棟で実施されるバイキングや季節行事、院内で毎年開催される芸術祭への協力をはじめ、金武町産業まつりへの参加など、地域とのつながりを大切に活動も行っていきます。イベントの実施にあたっては、安全面への配慮や参加しやすい環境づくりについて検討し、患者さんやご家族が笑顔になれる機会を提供できるよう努めています。

接遇グループでは、患者さんが気持ちよく当院を利用できる環境づくりを目的に活動しています。職員の身だしなみチェックを定期的に実施し、医療従事者としてふさわしい服装や態度について確認を行っています。また、環境美化ラウンドを通して病棟や外来の環境をチェックし、整理整頓や清潔感の維持に努めています。患者さんにとって病院は不安や緊張を感じやすい場所であるため、接遇の向上と環境整備は安心感につながる大切な要素となっています。

さらに、委員会活動では職員同士の情報共有や意見交換も積極的に行われています。各部署で発見された課題や改善案を持ち寄ることで、病院全体としてより良いサービス提供ができるよう検討を重ねています。患者さんから寄せられたご意見はもちろん、職員の気付きもサービス向上の貴重な材料として活用しています。

医療の質を高めることはもちろんですが、患者さんやご家族が安心して過ごせる環境を整え、心のこもった対応を実践することも私たちの重要な使命です。サービス向上委員会はこれからも患者さんの声に真摯に耳を傾け、一つひとつの課題改善に取り組みながら、地域の皆さまに信頼される病院を目指して活動を続けてまいります。患者さんに「この病院を利用してよかった」と感じていただけるよう、今後も職員一丸となってサービス向上に努めてまいります。

● 地域連携室だより

精神保健福祉士 伊禮 有香里

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関しての相談、社会資源に関しての相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。初診はじめ、受診については予約制となっており受診までお時間を要することもあります。入院治療のご相談など迅速に対応できるよう心掛けてまいります。お困りごとがありましたらお気軽に医事課隣の地域医療連携室までお声かけください。

院長

ふくじ やすひで
福治 康秀



1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77 番名護東線」浜田バス停
下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武
インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ460例になりました。2026年6月のCLZ登録症例は2例でした。CLZ導入前には、暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

西Ⅲ病棟のご紹介

西Ⅲ病棟師長 竹島 銀治

当病棟は医療観察法の指定入院医療機関として運営しています。医療観察法は、心神喪失または心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った者が裁判所の命令で入院し、病状の改善と同様な他害行為の再発防止、社会復帰を促進することを目的に入院治療する病棟です。治療には、医師・看護師・公認心理士・作業療法士・精神保健福祉士などの多職種でチーム医療を展開し専門性の高い治療を行っています。

今年、開棟19年目が経過し、以前は県外の方も多く入院されていましたが、全国的にも医療観察法病棟が設備され、現在は県内の方を中心受け入れています。季節の行事プログラムを取り入れ、関連機関、地域支援者と連携し、社会復帰を促進しています。

外来のご紹介

外来師長 玉木 彰子

当院外来部門では、主に統合失調症や双極性障害、うつや認知症診断の他、アルコール依存症やギャンブル依存症に対する専門的な診療治療を受けることができます。また、こどもの発育・発達に関連する悩みや心の悩みに対して、こども心療科がごぞいます。外来では専門的な知識を持ったスタッフが患者さんに寄り添い、患者さんの意向に沿った治療・看護を目指し定期的に家族会も開催しています。医師をはじめ、看護師・公認心理士・管理栄養士・作業療法士・精神保健福祉士といった多職種が治療に関わることで、患者さんがその人らしく、穏やかな社会生活が送れるよう支援を行っています。ご家族だけで悩まず、まずは、外来・地域医療連携室にご相談ください。

強度行動障害を伴う利用者への療育支援について

主任保育士 高木 美緒

西Ⅰ・西Ⅱ病棟には強度行動障害を有する方が入所されていますが、私たち療育指導室は入所されている皆様の発達年齢や育ちに合わせた「発達支援」と楽しめる活動や行事といった「日常生活支援」をベースに援助しています。「発達支援」といっても成人の方には機能維持やスキルの向上という方が適しているかもしれません。発達段階を踏まえて支援することは重要です。どこまでできるのか、コミュニケーション力、理解力を知ることによって支援方法が変わってきます。そして、活動や行事の支援において共通することは「環境調整」「特性に合わせた支援」「リスクへの配慮」が挙げられます。しかし一番大切にしたいことは「楽しいと思ってもらえる活動を提供すること」「自分たちも楽しむこと」です。私は「楽しい」を共有することが「またしたい」と思ってもらえることに繋がると考えています。又、入所されている皆様の生活がより豊かに、楽しくあるように多職種と情報を共有し連携していくことが大切だと考えます。

七夕メニュー ～星に願いを

栄養管理室 安藤より子

栄養管理室では毎月1～2回、行事食や季節に合わせたイベント食を提供しています。4月には清明祭、5月はこどもの日、6月23日は慰霊の日にちなんで沖縄そばやゴーヤーの和え物、シークワサーゼリーと沖縄の食材を使用した食事を提供しました。また7月7日の七夕には七夕そうめん、七夕ゼリーを提供しました。普通食の方の素麺には梅、玉子、抹茶の素麺も混ぜて涼しげな素麺とスイカを、形態調整食の方にはマスカット味のゼリーに星を浮かべた七夕ゼリーを提供しました。患者さんからも「美味しかった」とのお声をいただきました。これからも、四季折々のお食事を提供して参ります。今年の七夕は天気が良く星もきれいでしたが、どんな願い事をされましたか？みなさまの願いが叶いますように。

